

平成 28 年度

地球環境「自然学」講座

第 16 回

テーマ

ニホンウナギと人の暮らし

講師

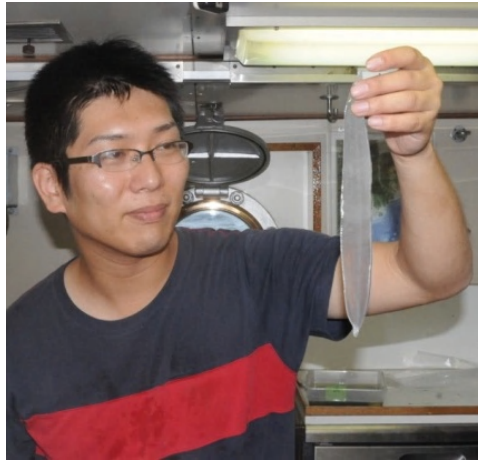
和歌山県立自然博物館 学芸員

揖 善継 先生

平成 28 年 12月10日(土)

認定NPO法人・シニア自然大学校

揖 善継 (かじ よしつぐ)



和歌山県立自然博物館 学芸員

略歴

昭和 54 年 12 月 5 日生まれ。鳥取市出身。

平成 10 年 4 月 九州大学農学部 入学

平成 14 年 3 月 九州大学農学部 卒業

平成 14 年 4 月 九州大学大学院 生物資源環境科学府 動物資源科学専攻 博士前期課程進学

平成 16 年 3 月 九州大学大学院 生物資源環境科学府 動物資源科学専攻 博士前期課程修了

平成 16 年 4 月 九州大学大学院 生物資源環境科学府 動物資源科学専攻 博士後期課程進学

平成 18 年 10 月より 和歌山県立自然博物館 学芸員

平成 19 年 3 月 九州大学大学院 生物資源環境科学府 動物資源科学専攻 博士後期課程単位取得中退

専門は魚類生態学。大学院では主に八重山諸島でオオウナギとウナギの生態を研究していた。現在は和歌山県内の魚類相解明と、天然記念物「富田川のオオウナギ生息地」の保全、ニホンウナギの加入と河川内生態の解明などに力を入れている。現在、毎月ニホンウナギのモニタリング調査を継続中。

博物館業務では、主に広報活動、図書整理、魚類標本管理などを行う。平成 23 年度特別展「うな Q - ウナギの不思議 - 」担当。平成 29 年度特別展「紀州深海魚大博覧会（仮）」担当。

和歌山県立自然博物館ホームページ <http://www.shizenhaku.wakayama-c.ed.jp>

主な著書等

ウナギのいる川 いらない川 内山りゅう 著 揖善継 監修 ポプラ社

特別展展示解説書 「うな Q - ウナギの不思議 - 」和歌山県立自然博物館

連載「生き物好記心 自然博物館だより」 産経新聞和歌山版

連載「生きものの館」 毎日新聞和歌山版

連載「ゆかいな仲間」 わかやま新報

2016 年 12 月 10 日

シニア自然大学校・地球環境「自然学」講座

「ニホンウナギと人の暮らし」

和歌山県立自然博物館

学芸員 揖 善継

日本人は、はるか昔からウナギ（ニホンウナギ）とともに暮らし、利用してきた。弥生時代の貝塚からはウナギの骨が出土し、奈良時代に編まれた万葉集では、2 首にウナギが登場する。水田とその周辺、および河川や湖沼などの内水面漁労の重要な漁獲対象種であったウナギが、現在大きくその数を減らしている。本講演では、長きにわたる人とウナギの付き合い方を見直すことで、今後の人とウナギのより良い付き合い方について考えるきっかけとしたい。

2013 年には環境省、2014 年には IUCN のそれぞれのレッドリストで、ニホンウナギは絶滅危惧 I B 類（EN : Endangered）に指定された。この指定の根拠となった農林水産統計によるウナギ（ニホンウナギ）の漁獲量データによると、全国の漁獲量は 1961 年の約 3400t をピークに、1970 年以降は減少の一途をたどり、平成 26 年にはわずか 113t となった。近畿地方に目を向けると、大阪府で 1930 年には 130 t の漁獲があったが、1992 年以降は 0t となった。現在近畿地方では琵琶湖で 3t の漁獲がある以外はまとまった量は無く、2 府 4 県で多く見積もっても全体で 5t ほどと考えられる。

資源の減少の要因は様々なものが考えられるが、1) 海洋環境の変動、産卵期間のずれなどの短期的要因、2) 乱獲や生息場所の減少などの中期的要因、3) 地球環境変動に対する種の生活史特性や分布域の適応的变化などの長期的要因の、大きく 3 つに分けられる（東アジア鰻資源協議会.2012）。このうち、我々人間の活動が直接ウナギ資源に影響を与え得るものは 2) 中期的要因のみであり、保全のための対策はこの要因を取り除く、もしくは改善することである。

河川の護岸がコンクリート化されることや、堰やダムなどによる海と川の連続性の低下、水田周辺の環境悪化など、ニホンウナギの生育できる環境が減少していることも、資源の減少に大きく関与していることが考えられる。近年、伝統漁法を応用した生息環境の改善や簡易な魚道なども開発されつつあり、生息環境の改善が期待されている。

人間の活動範囲と重なり合った環境で生育するニホンウナギの保全を考えるうえでは、我々人間の経済活動との折り合いをつけることが必須である。人とウナギ、そして多くの生き物が生息できる環境の保全が急務である。

1 ウナギと人のかかわり

- ・縄文人とウナギ モースの発見した大森貝塚（東京）、西広貝塚（千葉）、神黒岩岩陰遺跡（愛媛）など

- ・萬葉集 卷十六 三八五三

「石麻呂に我れ物申す 夏瘦せに よしといふものぞ

鰻(武奈伎) 捕り食せ」 大伴家持

- ・盛り場とウナギ 今・昔

- ・近世・近代の淀川ウナギ

浪華曾根崎図屏風 船遊図（江戸時代 18 世紀）など

- ・ウナギの語源は？ 胸黄・棟木・鵜難儀？

- ・日本と世界のウナギ料理

うな丼・うな重・ひつまぶし・

せいろ蒸し・ウナギの缶詰

(イタリア)

- ・ウナギを捕まえる 釣る・わなを仕掛ける・引っかける・はさむ

- ・ウナギと文芸

- ・ウナギと信仰 ウナギ絵馬、オオウナギ観音



白いウナギ絵馬 本恵寺蔵

2 絶滅危惧のウナギ

- ・ヨーロッパウナギ 2007 年ワシントン条約掲載（付属書Ⅱ）

2008 年国際自然保護連盟レッドリスト掲載（絶滅危惧ⅠA）

- ・ニホンウナギ 2013 年環境省レッドリスト掲載（絶滅危惧ⅠB）

2014 年国際自然保護連盟レッドリスト掲載（絶滅危惧ⅠB）

- ・2014 年近畿地方のウナギ漁獲（内水面）

多く見積もっても 7 t 程度 （昭和 5 年には大阪のみで 130t）

- ・ウナギ資源の減少要因（東アジア鰻資源協議会 2012）

1) 短期的要因

- ・海洋環境の変動、産卵時期のズレ、回遊期間の延長等による仔魚死亡率の増大
- ・産卵地点の南下と北赤道海流の分岐位置の北上による無効分散の増加

2) 中期的要因

- ・陸水、沿岸域における過度の漁獲
- ・生息場所の減少と劣化

3) 長期的要因

- ・長期的な地球、海洋環境変動に対する種の生活史特性や分布域の適応的变化

3 ウナギってどんな魚？

- ・デンキウナギはウナギ？
- ・世界のウナギ科魚類 世界中にウナギの仲間は 19 種・亜種
- ・日本のウナギ科魚類 ニホンウナギ、オオウナギ、ニューギニアウナギの 3 種



レプトケパルス幼生（望岡・木村撮影）

4 オオウナギ

5 ウナギの暮らしぶり

- ・謎の多いウナギの生態 やっとわかった産卵場
- ・2 度の変態 レプトケパルス幼生＞変態！
シラスウナギ＞クロコ＞黄ウナギ＞変態！
銀ウナギ
- ・養殖ウナギは天然ウナギ？
- ・ウナギの生息環境 ウナギの餌 ウナギの多い川とは？



音浦樋の図 紀伊国名所図会

6 調べる・ひろめる

7 保全の取り組み

最後に 一枚の絵が物語るもの